

インフォメーション・コーナー

会 告

○2024年度（第73回）農業農村工学会大会講演会の参加申込み  Web 事前参加登録 6月1日～7月31日	60
○2024年度（第73回）農業農村工学会大会講演会の企業展示および広告掲載申込み（再）申込締切 6月28日	61
○今年もやります！ 農業農村工学会ミニ動画コンテスト“こりゃ映像！2024” 応募締切 7月31日	61
○土地改良事業計画設計基準の一部改定に伴う新旧対照表を、学会 Web サイトに掲載しました	62
○お願い!! 新技術開発と人材確保・育成のための学術基金制度へのご寄付	62
○CPD 認定基準の一部改正（2024年度から）—「その他の自己学習（x）」の上限値等の見直し—	63
○CPD 通信教育の問題と解答をホームページに掲載	63
○学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集!!	63
○「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！	64
○改訂6版 農業農村工学標準用語事典 PDF 版および Web 版の閲覧申込み案内	65
○「水土の知（農業農村工学会誌）」 閲読ご協力のお礼	65
○「農業農村工学会論文集」 査読ご協力のお礼	66
○2025年の学会誌表紙写真の募集 応募締切 9月30日	66
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2022年7月から2024年6月までの編集体制と編集事務局	67
○第61回アイソトープ・放射線研究発表会の開催 7月3～5日開催	68
農業農村工学会論文集 内容紹介	69
農業農村工学会技術者継続教育機構認定プログラム（一般参加可）一覧 	70
学会記事	72

会員のみなさまへ

引っ越しや転勤などで個人情報に変更のある方は、suido@jsidre.or.jpまでご連絡ください。

なお、会員専用サイトでも、登録された個人情報の確認と変更手続きができます。

第92巻第6号予定

展望：中山間地域の未来を創造する：武山絵美

小特集：中山間地域の持続的成長に向けた課題と展望

報文：中山間地域での地域づくり手法とその人材育成：草 大輔ほか

報文：稲倉の棚田における各種保全活動の意義と耕地条件改善の必要性：内川義行ほか

報文：豪雪中山間地における錦鯉養殖の持続的発展の特徴：五十嵐樹里ほか

報文：農業用水路の点検・機能診断の実態解明と持続可能性の検討：九鬼康彰ほか

報文：焼畑用地選定に関する技能・知識の継承における視線計測技術の利用可能性：河本裕子

技術リポート

北海道支部：永年草地の低コスト排水対策に関する基礎調査：大塚省吾ほか

東北支部：腹付盛土によるフィルダム耐震化の仮設工事施工事例：山岸雄一ほか

関東支部：反転均平工法による圃場整備：田村篤史

関東支部：オクシズ地区における小規模茶園整備推進の取組み：滝沢崇将

京都支部：樹園地利用と管理ニーズに沿ったため池整備：吉田 聖

中国四国支部：児島湾締切堤防（排水樋門）の大規模地震に対する耐震化対策：松宮直樹ほか

九州沖縄支部：焼米ため池を活用した流域治水対策：松本裕樹

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加くださるよう、お待ちしております。

Ⓟのマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。なお、新型コロナウイルス感染症防止対策等により、ライブ配信での口頭発表が行われない場合は、認定プログラムの対象にならないこととございます。詳しくは主催先の各支部または各研究部会にお問い合わせください。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
2024年9月 10～13日	大会運営委員会	2024年度（第73回）農業農村 工学会大会講演会 Ⓟ	—	弘前市	91巻12号, 92巻1, 2, 3号
2024年10月 31日～11月1日	九州沖縄支部	令和6年度（第105回）支部大会 Ⓟ	—	福岡市	92巻4号
2024年11月 19日	京都支部	第81回研究発表会 Ⓟ	—	奈良市	92巻4号

2024年度（第73回）農業農村工学会大会講演会の参加申込み

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



2024年度（第73回）農業農村工学会大会講演会は、2024年9月10日（火）～13日（金）の4日間、弘前大学文京町キャンパス（青森県弘前市）およびアートホテル弘前シティで開催されます。本稿では開催要領、参加申込みなどについてお知らせします。

参加登録（事前登録）は、2024年6月1日から7月31日までです。

会場設備や発表プログラムの詳細等については本誌第7号（Vol.92/No.7）でお知らせします。

なお、講演発表を申し込まれた方も、別途、参加の申込みが必要です。

1. 開催要領

(1) 開会式および学会賞表彰式：

9月10日（火）13：30～
会 場 弘前大学文京町キャンパス
創立50周年記念会館（みちのくホール）
青森県弘前市文京町1番
TEL：0172-39-3490

(2) 交流会：9月10日（火）18：00～

会 場 アートホテル弘前シティ
青森県弘前市大町1-1-2
TEL：0172-37-0700

(3) 講演会：9月10日（火）、11日（水）、12日（木）

会 場 弘前大学文京町キャンパス・総合教育棟

(4) 現地研修会（予定）：9月13日（金）8：30～

- ①青森県つがる市・五所川原市方面
（青森空港着14：10、新青森駅着14：40、青森駅着15：00を予定）
- ②青森県黒石市・十和田市方面
（八戸駅着15：45を予定）
- ※バスの乗車場所（弘前市）と降車場所が異なりますのでご注意ください。

開会式および交流会、現地研修会などの開始時間については、プログラムの都合により多少前後する場合があります。会場の詳細、プログラムともに本誌第7号に掲載します。

2. 申込方法

2024年度（第73回）農業農村工学会大会専用ホームページ（2024年6月1日～7月31日開設）から参加登録（事前登録）をしてください。8月1日以降は当日登録のみとなります。この専用ホームページは農業農村工学会のホームページからもリンクされます。専用ホームページによる登録ができず、その他の方法での申込みを希望する場合は、「7. (1) 参加申込みに関する問合せ」までご連絡ください。

3. 参加費用

(1) 大会参加費用（税込）と内容

区分	事前登録（7/31まで）	当日登録
一般	13,200円	15,400円
学生	3,300円	5,500円
一般（オンライン聴講）	13,200円	15,400円
学生（オンライン聴講）	3,300円	5,500円

*昨今の物価上昇に加え、より良いサービスを提供するため参加費用の見直しを行いました。

(2) 交流会参加費

詳細については、農業農村工学会大会専用ホームページおよび本誌第7号に掲載します。

(3) 現地研修会参加費

詳細については、農業農村工学会大会専用ホームページおよび本誌第7号に掲載します。

4. 昼食

今回は弁当の事前予約ならびに大会当日の弁当販売は行いませんので、会場内にある食堂やコンビニエンスストア、または周辺の飲食店をご利用願います。

5. 宿泊施設・航空券などの斡旋

宿泊施設、航空券、鉄道各社の手配については斡旋しませんので、あらかじめご了承ください。

6. 会場までの交通案内

弘前大学文京町キャンパスおよびアートホテル弘前シティまでのアクセスにつきましては、以下のウェブサイトをご参照ください。

弘前大学文京町キャンパス

<https://www.hirosaki-u.ac.jp/info/access/>

アートホテル弘前シティ

<https://www.art-hirosaki-city.com/sightseeing/>

7. 問合せ先

(1) 参加申込みに関する問合せ

近畿日本ツーリスト(株)法人第3支店

「農業農村工学会 2024 年度大会講演会」係

〒101-0024 東京都千代田区神田和泉町 1-13

住友商事神田和泉町ビル 12 階

E-mail : ec-conv14@or.knt.co.jp

(2) 大会全般に関する問合せ

2024 年度農業農村工学会大会事務局 森 洋

〒036-8561 青森県弘前市文京町 3 番

弘前大学農学生命科学部

TEL : 0172-39-3871

E-mail : hmori@hirosaki-u.ac.jp

8. 大会実行委員会

委員長 藤崎浩幸

弘前大学農学生命科学部

2024 年度（第 73 回）農業農村工学会大会講演会の企業展示および広告掲載申込み（再）

2024 年 9 月 10 日（火）、11 日（水）、12 日（木）の 3 日間、弘前大学文京町キャンパス（青森県弘前市）で開催されます。2024 年度農業農村工学会大会講演会において、企業展示を行うとともに大会講演会概要集への広告掲載を行います。企業展示もしくは広告掲載を希望される企業は、下記要領によりお申し込みください。

1. 企業展示

弘前大学文京町キャンパス

※具体的な場所や条件はお問い合わせください。

なお、展示スペースの関係上、申込み先着 20 社までとさせていただきます。

2. 広告掲載

大会講演会概要集に掲載（A4 判モノクロ印刷）

※概要集は大会参加者全員に配布

3. 出展料

- ① 広告 1 ページ 88,000 円（税込）
- ② 広告 1/2 ページ 44,000 円（税込）
- ③ 企業展示（屋内） 110,000 円（税込）
- ④ 広告 1 ページ + 企業展示（屋内） 176,000 円（税込）
- ⑤ 広告 1/2 ページ + 企業展示（屋内） 143,000 円（税込）

4. 申込方法

(1) 申込用紙の送付

所定の申込用紙（農業農村工学会大会講演会のページ（<https://www.jsidre.or.jp/zenkokutaikai/>）に掲載）

を、また、企業展示の場合は、(2) に示す展示概要（任意様式）を大会事務局に送付（郵送、E-mail 等）。その後の手順は以下のとおりです。

- a (大会事務局) 申込み受付後、貴社へ連絡
- b (貴社) 広告原稿の送付（広告の場合）、資料用原稿の送付（企業展示の場合）
- c (大会事務局) 請求書の発送、大会講演会概要集の発送（広告の場合）、企業展示資料の発送（企業展示の場合）
- d (貴社) 振込み
- e (大会事務局) 領収書発送

(2) 展示概要

展示する内容および必要物品等（要電源、机、イス等）、希望事項等を任意様式で作成・提出してください。標準面積は幅 1.8 m × 奥行 1.5 m（屋内）です。

- (3) 申込期限 2024 年 6 月 28 日（金）まで
- (4) 振込先 後日、申込者に直接ご連絡します。
- (5) 申込み・問合せ先

2024 年度農業農村工学会大会事務局

〒036-8561 青森県弘前市文京町 3

弘前大学農学生命科学部 森 洋

TEL : 0172-39-3871

E-mail : hmori@hirosaki-u.ac.jp

今年もやります！ 農業農村工学会ミニ動画コンテスト “こりゃ映像！ 2024”

農業農村工学会広報委員会では、昨年に引き続き、下記のとおり、農業農村工学を紹介する動画を広く募集します。

- 1. 応募締切 2024 年 7 月 31 日（水）17 : 00
- 2. 動画の制限時間 60 秒以内
- 3. 2024 年度のテーマ 「ここにあった！ 農業農村の未来」

- 4. 応募資格 どなたでも応募できます。
- 5. 応募方法 動画を YouTube へ指定されたタグを付けてアップロードする。
- 6. 審査方法 広報委員会動画ワーキングチームで審議の上、最優秀賞 1 作品、優秀賞 2 作品を決定する。

7. 賞金 最優秀賞 (1 作品) 2 万円
優秀賞 (2 作品) 各 1 万円

8. アップロード方法

- ① 動画を作成する。
- ② YouTube にアップロードする (9. 参考資料を参照)。
- ③ タグに3つのワード (jsidre2024, こりゃ映像, 農業農村) を入れる。
- ④ カテゴリに「科学と技術」を選ぶ。
- ⑤ 下記の情報を広報委員会動画 WT (new-suido@jsidre.or.jp) 宛にメールで送る。
入賞賞金をお渡しするのに必要な情報 (氏名, 年齢, 性別, 所属, 連絡先, YouTube 動画の URL)

9. 参考資料

- ・ YouTube に PC から動画をアップロードする方法
<http://douga-tec.com/?p=4974>

・ スマホから YouTube に動画をアップロードするには
— Android 入門
<http://android.f-tools.net/Q-and-A/YouTube-Upload.html>

<参考>こりゃ映像 2023 結果

最優秀賞：水とともに生きる北信州

長野県北信地域振興局農地整備課 宮嶋裕樹
松嶋奈恵初

<https://youtu.be/x3Wj-FMibVc>

優秀賞：こんなにも！農業農村～陸月島里島ものがたり～

愛媛県陸月島 林農園 林 秀喜
内外エンジニアリング株式会社 藤原千里

<https://youtu.be/BTRzqmZkYxw>

優秀賞：【土木の偉人】中村哲さん【1分でわかる】

三重大学大学院生物資源学研究所修士 1 年 加藤沙耶香
https://www.youtube.com/watch?v=m_lEaQdBZxU

土地改良事業計画設計基準の一部改定に伴う新旧対照表を、学会 Web サイトに掲載しました

当学会で印刷・販売している次の土地改良事業計画設計基準が一部改定され、農林水産省より新旧対照表が公表されました。学会 Web サイトの図書販売のページにも掲載いたしましたので、ご参照ください。

<https://www.jsidre.or.jp/book-kijun/>

土地改良事業計画設計基準 計画「ほ場整備 (水田)」

(平成 25 年 4 月制定)

土地改良事業計画設計基準 計画「農業用水 (畑)」

(平成 27 年 5 月制定)

土地改良事業計画設計基準 計画「農業用水 (水田)」

(平成 22 年 7 月制定)

お願い!! 新技術開発と人材確保・育成のための学術基金制度へのご寄付

ポストコロナの社会的状況を踏まえ学会では 2024 年度の学生年会費を免除しています。また、大学改革の第二幕を迎えている現在、若手の研究者のみならず、教授を含めた大学教員の研究環境は悪化の一途^{など}を辿っており、研究費の削減から人材の育成も困難になっています。そのため、産官学の連携協力の強化を進めているところですが、一環として、学会にある学術基金の拡充が喫緊の課題となっています。使用目的を明確化していますので、ほかに使用することはなく、税制上の優遇措置もあります。新技術の開発と人材の確保・育成のため、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、衷心よりお願い申し上げます。

学術基金の枠組みは、以下のとおりです。

- (1) 学会の事業計画に沿った調査・研究 (学会に一任)
(※特に記載がなければ (1) として扱います。)

- (2) 条件を付した寄付
選定条件【

- ① ダム保全管理工学に関する調査・研究の推進
・ 気候変動、国土強靱化に対応した既存ダムの保全管理工学の体系化を推進

- ② 大規模コンクリート構造物の設計・施工に関する調査・研究の推進

・ 頭首工などコンクリートの大型構造物のプレキャスト化など効率的な施工による生産性の向上や工事期間の短縮に資する技術開発

- ③ ①, ②以外の分野および学際的の分野に関する調査・研究の推進

・ 上記①, ②以外、たとえば ICT など新たに取り組んでほしい技術

- ④ 国際学術会議への出席等の国際交流の推進

- ⑤ 若手研究者の育成の推進

- ⑥ 顕著な功績のあった農業工学遺産の保護等の推進

・ 青山霊園にある上野英三郎博士の墓所管理

・ 世界かんがい遺産などの保護に資する調査・研究 など

詳しくは学会ホームページ (https://www.jsidre.or.jp/gakujutsukikin_kifuno-onegai/) をご覧ください。

個人会員一口 5,000 円 (何口でも可)

法人会員一口 50,000 円 (何口でも可)

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店
 普通預金 No.1569058
 口座名 (社)農業農村工学会学術基金
 郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金
 公益法人である学会に法人が寄付すると法人税に対して税制優遇措置（一般損金算入限度額＋特別損金算入限度額）が受けられます。

CPD 認定基準の一部改正（2024 年度から）
— 「その他の自己学習（x）」の上限値等の見直し—

近年、品確法や建設業法の下で CPD が評価され、また日本技術士会では「技術士（CPD 認定）」の運用が始まるなど、CPD の活用が進んでいます。その一方で、コロナ禍の行動制限によって研修の形態が「集合対面型」より、インターネットを介した「自己学習型」が増加し、参加証明が得難い研鑽機会も増大しています。

習型の研修実績を正当に評価するため、2024 年 4 月より、業務運営細則に定める「別表 2 教育形態区分表」を一部改正し、自己学習【x】の分類の記号を【x1】と【x2】に区分するとともに、年間上限値を他の主要な CPD 運営体と同等の合計 30 cpd（現在は 20 cpd）とします。

農業農村工学会技術者継続教育機構では、このような自己学

習型の記録申請には、これまでどおり証拠書類の提出は不要です。

【別表 2】教育形態区分表の該当部分（下線部分を改正）

(改正後)

形態	分類 I	分類 II	記号	cpd 単位	上限値	証拠提出
⑤自己学習型	「水土の知」による自己学習	「水土の知」の購読	x1	0.5 H	10	-
	その他の自己学習	農業農村工学に関連する領域の図書・雑誌の読習、DVD の視聴、e-learning の受講、語学習得、展示会での情報収集等	x2	0.5 H	<u>20</u>	-

(改正前)

⑤自己学習型	「水土の知」による自己学習	「水土の知」の購読	x	0.5 H	10	-
	その他の自己学習	農業農村工学に関連する領域の図書・雑誌の読習、DVD の視聴、e-learning の受講、語学習得、展示会での情報収集等		0.5 H	<u>10</u>	-

CPD 通信教育の問題と解答をホームページに掲載

農業農村工学会技術者継続教育機構では、農業農村工学会員でもある CPD 個人登録者が在宅のまま CPD 単位が取得できることを目的に「CPD 通信教育」を実施しています。

の時点で解答可能な「通信教育問題」と解答期限を過ぎた「解答」を掲載しています。学会誌がお手元に届くまでの間はホームページ上で通信教育問題をご確認くださいようお願いいたします。

2021 年 9 月より、技術者継続教育機構のホームページにそ

学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!

農業農村工学会では、学会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者の方が CPD 単位を在宅のまま取得できる方法として、平成 17 年 10 号から農業農村工学会誌「水土の知」誌上で「CPD 通信教育」を実施しています。学会員であり、かつ CPD 個人登録者は、どなたでも無料で参加することができ、通信教育分【ac】として年間最大 24 cpd を取得する大きなチャンスとなっています。この機会に、是非 CPD 通信教育へご参加ください。

3 カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等の事実的内容から、択一式で毎月 10 問を出題

なお、解答内容については技術者倫理に則り、自らの責任で送信してください。

1. 参加資格

農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者

3. 解答方法

Web 画面に正解と思う番号を入力し、送信（事前に Web 利用登録が必要）

4. 解答期限

問題掲載月の月から翌月末日まで
 (例：学会誌 5 号掲載の問題は 6 月末日が解答期限)

5. 取得できる CPD 単位

10 問正解で 2 cpd を、7~9 問正解で 1.5 cpd を自動登録（正解数 6 問以下の場合は CPD 単位の付与はされません）

2. 出題内容と出題方法

6. 自動登録の時期

取得した CPD 単位は、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

1. 学会誌小特集の要旨の募集とその報文原稿の執筆

学会誌は毎号テーマを設定した報文小特集を基本に、企画・編集を行っています。本小特集に投稿を希望される会員の皆様には、先に、下記に示す各号の趣旨に沿った報文要旨（A4判、1,500字程度、様式自由）を要旨締切り日までに提出していただきます。

その後、企画・編集委員会において提出された要旨の内容を

検討し、小特集報文を提出していただく連絡を要旨提出された方に行います。その報文原稿の締切り期日は、おおむね本文原稿提出連絡日の約1カ月後です。本文原稿の分量は、**刷上り4ページ**となっておりますので、ご執筆の際には**厳守**をお願いいたします。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがあります。

学会誌第92巻・第93巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 (A4判1,500字程度)
第92巻第6号 中山間地域の持続的成長に向けた課題と展望 (仮)	終了
7号 東北の農業農村整備の現在と未来に向けた取組み (仮)	公募なし
8号 農業水利システムにおける省エネルギー化の更なる推進に向けて (仮)	終了
9号 農業農村工学の魅力発信 (仮)	終了
10号 進化するシミュレーションモデル (仮)	終了
11号 農業農村における野生鳥獣害対策の最前線 (仮)	5月10日
12号 —	公募なし
第93巻第1号 農業農村工学分野におけるAIの活用 (仮)	7月10日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せください。

送付先（要旨および本文原稿など）

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

(公社)農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会あて

TEL: 03-3436-3418 FAX: 03-3435-8494

E-mail: henshu@jsidre.or.jp

※提出は、E-mailの添付ファイルにてお願い申し上げます。

第92巻第11号テーマ「農業農村における野生鳥獣害対策の最前線」(仮)

わが国における野生鳥獣による農作物被害額は令和4年度で156億円にのぼり、ピーク時の平成22年度と比較すると65%程度まで減少したものの、依然として高い水準にあります。鳥獣害は、営農意欲の減退、耕作放棄・離農の増加、森林の下層植生消失等に伴う土壌流出による国土保全機能の低下や希少植物の食害など、直接・間接的に農山村に深刻な影響を及ぼしています。特に急速な人口減少が進む中山間地域では、今後ますます農地の管理が困難になり、鳥獣被害の増加が予想されます。

令和5年3月に閣議決定された「生物多様性国家戦略2023-2030」においても、生物多様性が直面する危機の一つとして、里地里山等における「自然に対する人間の働きかけの縮小・撤退による生物多様性への負の影響」が挙げられています。そして、「野生鳥獣との軋轢緩和に向けた取組を強化する」ことを目標に、鳥獣被害防止対策の推進、地域資源としての捕獲鳥獣

の利活用、鳥獣保護管理や鳥獣被害対策の担い手育成・確保等に取り組む必要性が述べられています。

現場においては「鳥獣被害防止特措法」(平成19年制定)に基づき、現場に最も近い行政機関である市町村を中心に対策が図られてきました。近年、被害防止等を目的としたシカやイノシシの捕獲頭数は大幅に増加し、捕獲鳥獣を地域資源(ジビエ等)としてさまざまな分野に利用する動きが加速しています。また、監視システムを導入した罠の設置や生息・被害状況調査の際のセンサーカメラの設置等、鳥獣対策におけるICTの普及・活用も進められています。一方で、ジビエのさらなる利用拡大や捕獲人材の育成など、課題も多く残されています。

以上を踏まえ本小特集では、農業農村における鳥獣被害の最新の実態調査や対策技術およびその成功事例、地域資源としての利活用法や今後の展望など、広く報文を募集します。

第93巻第1号テーマ「農業農村工学分野におけるAIの活用」(仮)

人工知能(AI)技術は近年、共有可能なデジタルデータの増加、アルゴリズムの高度化、計算機能力の向上などによって加速度的に発展しています。またAI関連の技術やフレームワークがオープンソースとして提供されることなどにより、さ

まざまな分野でその応用が進み、広範な産業領域や社会インフラなどに大きな影響を与えています。

一方、農業分野では農業労働力の主力となる基幹的農業従事者は年々減少傾向にあり、2020年の統計では65歳以上が

70%を占め、担い手の高齢化や後継者不足が大きな問題となっています。現在の農業は、生産工程の多くで農業機械をはじめさまざまな技術の導入が進み、省力化が進展していますが、人手に頼る部分もまだまだ多く、一層の生産性向上のためには、ロボット、AI、IoTなど先端技術の導入により、作業の省力化・自動化、高度化等の農業のDX化を進めることが課題となっています。このため農林水産省では農業のDX化を推進しており、農業農村工学分野においては、ダムや橋梁などのインフラ点検において、センサーやドローン等を活用した点検・監視が行われつつあり、農業水利施設の維持管理についても、デジタル技術を活用して、日常的な点検や、機能診断、監視の省力化や、データ分析に基づく保全管理の効率化が進められています。これらの施策の推進により得られたデジタルデータの蓄積と、前述したAI技術の発展は、農業農村工学分野の技術に大きな変革をもたらす可能性を秘めています。

2. 自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿原稿およびその他の投稿区分の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページ (<https://www.jsidre.or.jp/journal/>) に掲載の「農業農村工学会誌投稿要項」、『農業農村工学会誌』原稿執筆の手引き

このような中、本小特集では農業農村工学分野におけるAIの活用を取り上げます。AIは技術革新のスピードが速いことから、現時点での事例を広く共有することは、今後の技術開発や政策へのAIの活用法を検討する上での礎となります。このような観点から、農業用施設の機能診断、各種解析、情報化施工、経験知の継承、防災および事故防止、作物分野と連携したリモートセンシングなど、農業農村工学分野へのAIの活用事例や研究に関する報文を広く募集します。また昨今話題となっている生成AIや説明可能なAIの農業農村工学分野への活用事例や研究に関する報文も歓迎します。

なお、近年のAIは、機械学習、特に深層学習（ディープラーニング）に基づくものが中心となっていますが、本小特集ではAIを機械学習に基づく技術に限定せず、それ以外の人工知能技術も対象とします。また報文では活用したAIの評価についても論じていただけたらと存じます。

を熟読の上、小特集と同じく農業農村工学会誌企画・編集委員会あてに、ご投稿ください。

ご投稿に当たっては、投稿票・内容紹介・本文（テンプレート）の各ファイル（Word）を上記の学会ホームページからダウンロードし、原稿の作成にご使用ください。

改訂6版 農業農村工学標準用語事典 PDF版およびWeb版の閲覧申込み案内

改訂6版 農業農村工学標準用語事典 PDF版およびWeb版の閲覧希望の皆様へ

改訂6版 農業農村工学標準用語事典は、2019年8月27日に発行し好評を得ていますが、下記に該当する冊子購入者の中で希望される方には、学会ホームページ上で閲覧サービスを行っています。該当する閲覧希望の方は、下記にしたがい閲覧の手続きをお願い申し上げます。

- (1) 本用語事典の学会Web上での開示については、①正会員でかつ個人で購入した方、および②学生会員での購入者（大学等での先生の紹介によるグループ購入者も含む）の中で希望される方へサービスを提供します。
- (2) 上記の条件を満たす方で閲覧を希望される方は、「改訂6版用語事典Web上閲覧希望」とメール件名に明記の上、

氏名、会員番号および購入年月を付記して（学生会員でグループ購入された方は、紹介の先生の氏名も含む）、下記E-mail宛にお申し込みください。

suido@jsidre.or.jp

- (3) 上記メールを受信および確認後、閲覧の手順およびパスワードを返信メールにてご連絡申し上げます。
- (4) 学会ホームページ上で閲覧が可能なものは、改訂6版 農業農村工学標準用語事典 PDF版およびWeb版が付記されたコンテンツになります。なお、Web版とは、改訂5版から改訂6版の編集において、時代や科学技術の変化にともない改訂6版から削除した用語の中から現在においても参考になる用語を収録したものです。

「水土の知（農業農村工学会誌）」 閲読ご協力のお礼

「水土の知（農業農村工学会誌）」は、2023年度において、第91巻第4号～第92巻第3号の12冊を発行することができました。これもひとえに昨年度の一年間に閲読のご協力をいただきました約70名の方々のご尽力の賜と感謝いたします。

今後ともご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

なお、個人情報保護の観点から、閲読者のお名前は非公表とさせていただきます。

「農業農村工学会論文集」査読ご協力のお礼

農業農村工学会論文集は、2023年度において、研究論文23本、研究報文12本、研究展望1本、研究ノート4本をJ-STAGEに公開することができました。これもひとえに昨年度の一年間に査読のご協力をいただきました約125名の方々のご尽力の

賜と感謝いたします。

今後ともご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

なお、個人情報保護の観点から、査読者のお名前は非公表とさせていただきます。

2025年の学会誌表紙写真の募集

学会誌企画・編集委員会では、2025年発行の学会誌も引き続き学会員の皆さまからの写真などを基本に表紙を飾ることとします。以下の趣旨を参考に魅力ある写真などをふるってご応募ください。

趣 旨

現代に入り農業の近代化のために、農業農村工学の粋を集めた多くの農業（水利）施設が造成され、農業や農村の基盤を支えています。そして、近年、それらも更新や機能保全を重ね施設の様態も変化してきています。さらに、日本の農業農村工学の成果は技術移転により、海外の多くの国々で現地適用され、それらの国々の食料供給と農業生産の基盤を支えています。農業農村の現場で活躍される技術者、現場での調査研究に邁進されている研究者・学生の皆さま、国内外の農村地域における農業施設・構造物、特に新たに完成した施設や施工中の現場事例および国外においては日本の関連技術が適用された事例などの匠（造形美、用の美、融合の美）とそれを含む景観を広く学会員にご紹介ください。

記

1. テーマ

「農業（水利）施設・構造物とそれらに支えられた農地・地域の景観など：現代の最新技術と苦勞が垣間見える造形美・用の美など」

2. 対象巻号

学会誌第93巻（2025年第1～12号）

3. 写真などの種類

応募写真はデジタル、フィルムを問わず四つ切りを含むA4以上B4以下のサイズにプリントしたものとします。プリントは「写真用紙—光沢紙」を使用してください。四つ切りワイドも含まれます。なお、四つ切りは254×305mm、同ワイドは254×356mm、A4は210×297mm、B4は257×364mmです。カラー、モノクロは問いません。採用となった写真についてはデジタル写真の場合に限って画像データを送っていただきます。データを送信する場合は一点につき20MB以下とし、これを超えるものはCDまたはDVDにて送ってください。形式はJPEGのみに限定します。

4. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

5. 締切

2024年9月30日

※応募時、過去1年以内に撮影したものに限りです。

6. 審査

審査委員会（編集委員と写真家）で選考します。

7. 結果発表

学会誌第93巻第1号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は2024年度大会講演会会場内でパネル展示します。

8. 被写体の説明文または「Cover History（表紙写真由来）」の執筆および写真使用料について

採用作品の応募者は、撮影の動機、被写体にひかれた点、被写体の説明などを、学会誌掲載の「Cover History（表紙写真由来）」にご執筆いただきます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。また、採用作品には規定の写真使用料（1点につき1万円）をお支払いします。なお、すべての応募作品が不採用となった応募者には記念品をお送りします。

9. 使用権・著作権

採用作品の使用権および著作権は（公社）農業農村工学会に属します。

10. 注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、農業施設・構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること（花などの情緒物に埋没しないこと）が採用の条件となります。

また、被写体の学会誌への掲載、肖像権や権利関係については許可等、十分ご注意ください。

11. 応募方法および応募先

学会ホームページ（<https://www.jsidre.or.jp/format/>）より、投稿票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、勤務先、電話番号、E-mailアドレス、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、対象物の固有名称（固有名称）、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送りください。

なお、原則として、応募写真は返却いたしません。

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

（公社）農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会「表紙写真公募」係

TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494

E-mail：henshu@jsidre.or.jp

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと
2022年7月から2024年6月までの編集体制と編集事務局

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering : PAWEES) では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」(略称: PAWE) を発行しています。なお、Paddy and Water Environment 誌の略称は、これまで PWE としておりましたが、2022年11月の国際集会以降は PAWE に統一されることとなりました。

本ジャーナルは、モンsoonアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。また、2022年のインパクトファクター (IF) は2.2と過去最高の値になり、国際ジャーナル誌としての位置づけがますます向上しています。

水田農業における土地、水、施設および環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としており、掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑 (水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水 (排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全 (土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全 (水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能 (洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全 (水生, 陸生動物植物の生態系)
- ⑦ 水利施設と減災・防災 (施設管理, 地すべり, 気候変動, 災害防止など)
- ⑧ 地域計画 (農村計画, 土地利用計画など)
- ⑨ バイオ環境システム (水田農業と水環境, 土壌環境, 気象環境)
- ⑩ 水田の多目的利用 (田畑転換, 施設園芸)
- ⑪ 農業政策 (農村振興, 条件不利地の支援策など)

また、世界 11 カ国から Editor (20 名) を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名な Springer 社からの刊行です。掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の 4 種類です。

2022年7月から、新たな編集体制をスタートさせました。詳細は以下のとおりです。

編集体制

• Editor-in-Chief

Dr. Toshiaki IIDA

Faculty of Agriculture, Iwate University, Japan

• Associate Editors-in-Chief

Dr. Seong-Joon Kim

Konkuk University, Korea

Dr. Yu-Pin Lin

National Taiwan University, Taiwan

• Editors 13 カ国から 20 名

• Editorial Advisors 30 名

• Chief Managing Editor

Dr. Chihhao FAN

Department of Bioenvironmental Systems Engineering,
National Taiwan University, Taiwan

• Managing Editors

Dr. Eunmi HONG

School of Natural Resources and Environmental Science,
Kangwon National University, Korea

Dr. Taeil JANG

Department of Rural Construction Engineering, Chonbuk
National University, Korea

Dr. Kuo-Wei LIAO

Department of Bioenvironmental Systems Engineering,
National Taiwan University, Taiwan

Dr. Tasuku KATO

Institute of Agriculture, Tokyo University of Agriculture
and Technology, Japan

Dr. Katsuyuki SHIMIZU

Faculty of Agriculture, Tottori University, Japan

Dr. Soji SHINDO

Rural Development Division, Japan International
Research Center for Agricultural Sciences (JIRCAS),
Japan

編集事務局 (2024年6月まで台湾担当)

Dr. Chihhao FAN

Department of Bioenvironmental Systems Engineering,
National Taiwan University, Taiwan

No. 1, Section 4, Roosevelt Road, Taipei, Taiwan

TEL : +886-2-3366-3476

FAX : +886-2-2363-5854

E-mail : chfan@ntu.edu.tw

投稿先 : オンライン投稿 (<http://pawe.edmgr.com/>) になります。

投稿資格 : 筆者が農業農村工学会員で PAWE 誌の購読者であること。

投稿要領等 : <http://pawe.edmgr.com/> に詳細を記載しています。

発行スケジュール : 年 4 回 (オンラインジャーナル)

購読料 : 正会員・名誉会員 9,900 円 (税込)

学生会員 (院生含む) 4,950 円 (税込)

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は、まず

農業農村工学会にご入会の上、お申し込みください。

なお、オンラインジャーナルへの完全移行に伴い、2016年度からの購読はパスワードによる Web 上での閲覧になっています。

す。冊子体の配布はありません。

申込先：農業農村工学会事務局 (suido@jsidre.or.jp) まで会員番号を明記の上、お申し込みください。

第 61 回アイソトープ・放射線研究発表会の開催

1. 主催 (公社)日本アイソトープ協会
協賛 農業農村工学会ほか
後援 応用物理学会ほか
2. 期日 2024年7月3日(水)～5日(金)
3. 会場 日本科学未来館
〒135-0064 東京都江東区青海 2-3-6
4. 問合せ先
(公社)日本アイソトープ協会

- アイソトープ・放射線研究発表会事務局
〒113-8941 東京都文京区本駒込 2-28-45
E-mail: happyokai@jrias.or.jp
5. その他
詳しくは、第 61 回アイソトープ・放射線研究発表会のホームページ(<https://confit.atlas.jp/guide/event/jrias2024/static/summary>)をご覧ください。

オンラインジャーナル 農業農村工学会論文集

農業農村工学会論文集は、より投稿しやすい環境と早期公開を実現するため、平成27年4月より J-STAGE を利用したオンラインジャーナルになりました。

J-STAGE上に公開されることで被引用環境も整っています。

進化した農業農村工学会論文集に皆様のご投稿をお待ちしております。

- 電子投稿・査読システムの導入により、平均 4カ月 で審査終了！
- 審査終了後、順次 J-STAGE に掲載！
- 論文集購読者は、オンライン登載直後より閲覧可能、
冊子体も配布、掲載料も低価格！
- 投稿資格を緩和、非会員も条件により投稿可能に！